



日本明治初期 英语日译研究

——启蒙思想家西周的汉字新造词

〔日本〕手岛邦夫 著
刘家鑫 编译



中央编译出版社
Central Compilation & Translation Press

日本明治初期 英语日译研究

——启蒙思想家西周的汉字新造词

〔日本〕手岛邦夫 著
刘家鑫 编译



中央编译出版社
Central Compilation & Translation Press

图书在版编目(CIP)数据

日本明治初期英语日译研究：启蒙思想家西周的汉字新造词 / (日) 手岛邦夫著；刘家鑫编译. —北京：中央编译出版社，2013. 11

ISBN 978 - 7 - 5117 - 1675 - 0

I. ①日… II. ①手… ②刘… III. ①英语 - 翻译 - 研究 - 日本 - 明治时代
②日语 - 翻译 - 研究 - 日本 - 明治时代 IV. ①H315.9 ②H365.9

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2013) 第 132825 号

日本明治初期英语日译研究——启蒙思想家西周的汉字新造词

出 版 人 刘明清

出版统筹 谭 洁

责任编辑 曲建文

责任印制 尹 珺

出版发行 中央编译出版社

地 址 北京市西城区车公庄大街乙 5 号鸿儒大厦 B 座 邮编：100044

电 话 (010) 52612345 (总编室) (010) 52612370 (编辑室)
(010) 66161011 (团购部) (010) 52612332 (网络销售)
(010) 66130345 (发行部) (010) 66509618 (读者服务部)

网 址 [www. cctpbook. com](http://www.cctpbook.com)

经 销 全国新华书店

印 刷 北京瑞哲印刷厂

开 本 710 毫米 × 1000 毫米 1/16

字 数 215 千字

印 张 17.25

版 次 2013 年 11 月第 1 版第 1 次印刷

定 价 55.00 元

本社常年法律顾问：北京市吴栾赵阎律师事务所律师 闫军 梁勤

凡有印装质量问题，本社负责调换。电话：(010) 66509618

序 言

本书的底稿，是笔者于平成十四年（公元 2002 年）向东北大学（日本仙台）提交的博士学位论文。原论文的题目为《西周译词研究》。此次，承蒙中国天津理工大学的友人刘家鑫教授的帮助，在中国出版中文简体字版。

该论文写完后，起初应该在日本出版成书，但回过头来再看论文时，发现了许多谬误之处。正想着要修改一些内容的当口，精力又被牵扯到其他的事务上去了，因而就搁浅了。最近，在刘老师的热心劝导下，仅做小部分修改就付梓出版了。在此，本人谨向刘老师深表谢意！

西周（Nishi Amane, にし・あまね, 1829~1897），是日本明治时代初期的启蒙思想家。日本江户时代末期，他曾留学荷兰，学到了西方近代的许多思想。回到日本后，他在哲学、逻辑学、心理学、教育、政治和军事等领域致力于西方思想的普及工作。其重要成就之一，就是为翻译西方的思想与文化创造了许多新的译词。以“哲学”一词为例，还有诸如“外延・内包・概念・概括・蓋然・抽象・命証・断言・感受性・創造力”等，不胜枚举。其中的一部分词语，还流传到中国并使用至今。

这些，在先行研究中均有所指出。然而，这其中混杂着不少中国古书里已有的词汇，以及由清代传教士们的西方学术著作中带进来的词汇，这些词

汇都被混同在一起论述下来。相比前人的研究，本书做了更加详实的调查。就西周曾经使用过的译词，搞清了其起源问题，并敲定下了许多切实属于他自己的新造词。

为了本书的出版，从拙稿的翻译，到筹划、校对、发行，一切都仰仗了刘家鑫老师的帮扶照料。我与刘老师的交往之缘，要追溯到刘老师在日本留学的时候。那时，我们曾经一同在宫城教育大学教育学研究系和东北大学国际文化研究系就学。现在，他在百忙的工作中，为本书的刊行竭尽了全力。本人再次深表感激之情！

另外，我正在考虑对本书进一步加以修改，然后在日本出版日文版。

手岛邦夫

2012年11月

序 文

本書の原稿は、筆者が平成十四年（西暦 2002 年）に東北大学に提出した博士論文である。当該論文の原題は「西周の訳語の研究」である。この度、天津に住む友人の天津理工大学の劉家鑫教授のご尽力により、中国で中国語略字版を出版させていただくことになった。

この論文は完成後、最初に日本で出版すべきであったが、しばらくして読み返すと、色々欠点が見つかり、修正すべき個所を直そうと思っているうちに他の業務にまぎれ、そのままになってしまっていた。それが劉先生の熱心なお勧めにより、ごくわずかな修正を加えて出版させていただくことになったものである。劉氏に深く感謝したい。

西周（Nishi Amane, にし・あまね, 1829～1897）は、日本の明治時代初期に活躍した啓蒙思想家である。江戸時代末期にオランダに留学し、西洋の近代思想の多くを学び、日本において哲学・論理学・心理学・教育・政治・軍事などの分野で西洋思想の啓蒙普及に努めた。その功績の重要な一つが、西洋思想の文物の翻訳において新しい訳語を創造したことである。それらは「哲学」をはじめとして、「外延・内包・概念・概括・蓋然・抽象・命証・断言・感受性・創造力」など多数にわたり、一部の語は中国に

も渡って現在に至っても用いられている。

これらの多くは先行研究でも指摘されてきたが、その中には中国の古い書物にある語や、清代の宣教師たちの洋学書から移入された語が混じっていて、そうした語が混同されて論じられていた。本書は従来よりさらに詳細な調査を行い、西周の用いた訳語について、その起源を明らかにし、彼の新造語を特定しようとしたものである。

本書の出版に際しては、拙稿の翻訳はもとより、発注から校正、刊行に至るまで、すべて劉先生のお世話になった。劉先生とは、先生の日本留学中、宮城教育大学教育学研究科および東北大学国際文化研究科に在籍中お付き合いをいただいたご縁である。劉先生は多忙な大学の激務の中で、本書の刊行に尽力された。重ねて深謝申し上げたい。

本書については、さらに一層の修正を加えて、日本でも日本語版を刊行したいと考えている。

手島 邦夫

2012年11月

目 录

序言（中文）	1
序文（日文）	3

译文篇

第一章 序论	3
第一节 研究目的	3
一、本研究的目的	3
二、问题之所在	5
1. 关于“新造词”	5
2. 译词流通的原因	6
第二节 研究方法	7
一、译词的收集	7
二、译词出处的调查	8
三、译词流通的调查	9
第三节 西周译词的研究史	10
第二章 西周的译词	16
前言	16
第一节 译词数、语种、汉字译词的字数	17
一、关于译词数	17
二、译词的语种	17

三、汉字译词的字数	18
四、不同著作的译词数	19
第二节 不同著作中译词的特色	20
一、《百学连环》译词的特色	20
二、《生性发蕴》译词的特色	21
三、《致知启蒙》译词的特色	23
四、《心理学》译词的特色	24
第三章 西周译词的源流	27
前言	27
第一节 关于译词的出处	29
第二节 来自英华及英和辞书的影响	31
一、罗普夏特《英华字典》的影响	31
二、英和辞书的影响	32
1. 《英和对译袖珍辞书（初版·再版）》	32
2. 《和英语林集成（初版）》	33
3. 《谙厄利亚语林大成》	33
4. 《和英语林集成（再版）》	35
5. 《附音插图英和字汇》	36
(1) 《百学连环》与《附音插图英和字汇》	36
(2) 《心理学》与《附音插图英和字汇》	39
第四章 西周的新造词	42
前言	42
第一节 新造词的认定与其结果	43
一、新造词的认定方法	43
二、关于新造词	44

第二节 前人观点之纠正	47
一、栗岛(1966)观点的纠正	47
二、其它记述的纠正	49
(1)《国语学研究事典》(1977)“西周”词条	49
(2)《国语学大辞典》(1980)“译语”词条	49
(3)广田荣太郎《近代译语考》(1969)	50
三、前人观点产生谬误的原因	51
第三节 西周的造词方法	51
一、从日式句译形态到汉字译词	51
二、辞书中词汇的修正与造词	53
1.《英华字典》译词的修正	53
2.英和辞书译词的修正	54
三、两字汉字译词+接尾词	56
四、新造词的再次修正	57
第五章 西周译词对后世的影响	59
前言	59
第一节 西周译词的流通	59
一、现今仍在通用的译词	59
二、新造词的固定	60
第二节 西周译词流通的原因	63
一、语言性原因	63
1. 译词的新鲜感	63
2. 标示原语的数量之多	64
3. 译词注释的数量之多	65
二、语言外原因(社会性原因)	66
1. 被《哲学字汇(初版)》所采纳	66
2. 从《哲学字汇(初版)》到《英和字汇(第二版)》	68

(1)与《心理学》的关系·····	68
(2)与《致知启蒙》的关系·····	69
3. 西周给予学院派的影响·····	70
(1)“哲学”的例子·····	70
(2)“社会”与“社会学”的例子·····	71
三、流通原因之总结·····	72
 第六章 结论·····	74
前言·····	74
第一节 西周的新造词·····	75
第二节 西周译词的流通与其原因·····	77
第三节 各章的结论·····	78
结语·····	81

原文篇

第一章 序論·····	85
第一節 研究の目的·····	85
一、本研究の目的·····	85
二、問題の所在·····	87
1.「新造語」について·····	87
2. 訳語の流通要因·····	89
第二節 研究の方法·····	90
一、訳語の収集·····	90
二、訳語の出自調査·····	91
三、訳語の流通調査·····	92
第三節 西周の訳語の研究史·····	93

第二章 西周の訳語	99
はじめに	99
第一節 訳語数・語種・漢語の字数	100
一、訳語数について	100
二、訳語の語種	100
三、漢語の字数	101
四、著作別の訳語数	102
第二節 著作別の訳語の特色	103
一、「百学連環」の訳語の特色	103
二、「生性発蘊」の訳語の特色	104
三、『致知啓蒙』の訳語の特色	106
四、『心理学』の訳語の特色	107
第三章 西周の訳語の源流	110
はじめに	110
第一節 訳語の出自について	112
第二節 英華及び英和辞書からの影響	114
一、ロプシャイト『英華字典』の影響	114
二、英和辞書の影響	115
1. 『英和对訳袖珍辞書（初版・再版）』	115
2. 『和英語林集成（初版）』	116
3. 『語厄利亜語林大成』	117
4. 『和英語林集成（再版）』	119
5. 『附音挿図英和字彙』	120
（1）『百学連環』と『附音挿図英和字彙』	120
（2）『心理学』と『附音挿図英和字彙』	122

第四章 西周の新造語	126
はじめに	126
第一節 新造語の認定とその結果	127
一、新造語の認定方法	127
二、新造語について	128
第二節 先行説の修正	131
一、栗島（1966）説の修正	131
二、その他の記述の修正	133
（1）『国語学研究事典』（1977）「西周」の項	133
（2）『国語学大辞典』（1980）「訳語」の項	134
（3）広田栄太郎『近代訳語考』（1969）	134
三、先行説の誤謬の原因	135
第三節 西周の造語方法	136
一、和語による句訳から漢語訳へ	136
二、辞書の語の修正による造語	138
1. 『英華字典』の訳語の修正	138
2. 英和辞書の訳語の修正	139
三、二字漢語＋接尾語	141
四、新造語の更なる修正	142
第五章 後世への影響	144
はじめに	144
第一節 西周の訳語の流通	144
一、現在も通用の訳語	144
二、新造語の定着	145
第二節 西周の訳語の流通の要因	148
一、言語的要因	148
1. 訳語の新しさ	148

2. 原語を示すルビ等の多さ	150
3. 訳語についての自注の多さ	150
二、言語外要因（社会的要因）	152
1. 『哲学字彙（初版）』による採用	152
2. 『哲学字彙（初版）』から『英和字彙（第二版）』へ	154
(1) 『心理学』との関係	154
(2) 『致知啓蒙』との関係	155
3. アカデミズムにおける西周の影響	156
(1) 「哲学」の例	156
(2) 「社会」と「社会学」の例	157
三、流通要因のまとめ	158
 第六章 結論	 160
はじめに	160
第一節 西周の新造語	161
第二節 西周の訳語の流通とその要因	163
第三節 各章における結論	164
おわりに	167

資料篇

資料編（凡例）	171
 資料Ⅰ 出自による西周の訳語（漢語）一覧	 172
A. 漢籍や仏典に典拠があり、近世までの国書にも 用いられた語（630）	 172
B. 漢籍や仏典に典拠があるが、主に幕末や明治初期になって 用いられた語（329）	 174

C. 漢籍や仏典の典拠は不明で、主に近世以降の国書に 用例を見出せる語 (93)	176
D. 漢籍・仏典や近世までの国書に用例がなく、 幕末や明治初期の新語の可能性のある語 (846)	176
D のうち、西周の新造語と推定される二字漢語 (239)	179
 資料Ⅱ 西周の使用した訳語と新造語一覧	181
 参考文献 (五十音順)	239
I. 西周関係文献	239
II. 訳語・漢語関係文献	239
III. 辞書・事典・書誌・目録・索引等文献	242
 附 録 篇	
附录一 西周其人与其思想译介	247
附录二 西周的伦理学与法学思想	252
附录三 近现代日本年号与公元对照表	259
 编译后记	262

译文篇

